

「道の駅」の整備目的

「道の駅」とは

長距離ドライブが増え、女性や高齢者のドライバーが増加するなかで、道路交通の円滑な「ながれ」を支えるため、一般道路にも安心して自由に立ち寄り、利用できる快適な休憩のための「たまり」空間が求められています。

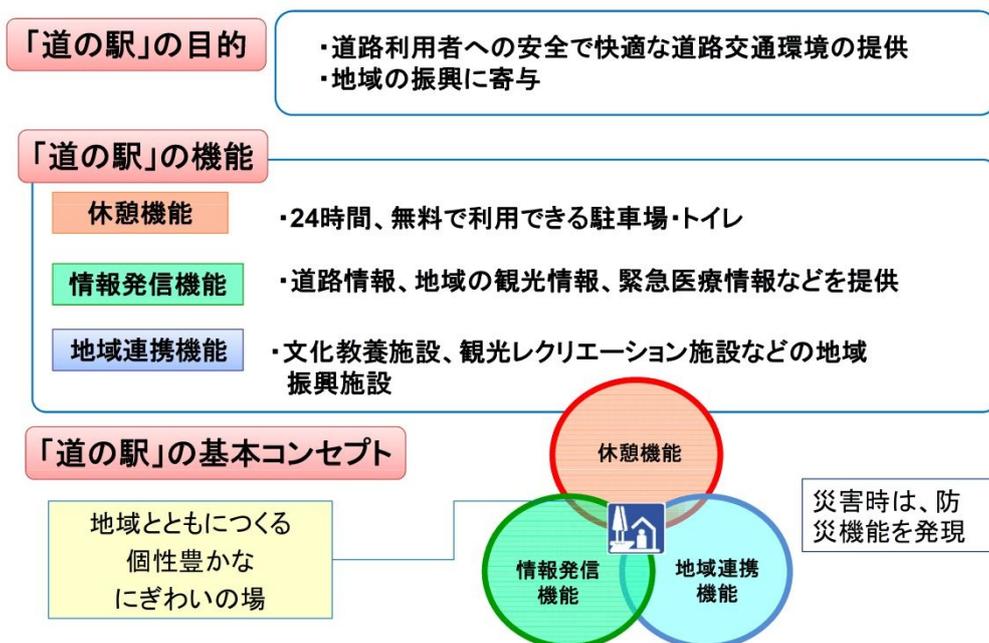
また、価値観の多様化により、個性的で楽しい空間が望まれており、これら休憩施設では、沿道地域の文化、歴史、名所、特産品などの情報を活用し、多様で個性豊かなサービスを提供することができます。

さらに、これらの休憩施設が個性豊かなにぎわいのある空間となることにより、地域の核が形成され、活力ある地域づくりや道を介した地域連携が促進されるなどの効果も期待されます。

このようなことを背景として、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして「道の駅」をきっかけにまちとまちとが手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域連携機能」、の3つの機能を併せ持つ休憩施設「道の駅」が平成5年4月に誕生しました。

1 | 「道の駅」の基本コンセプトと機能

国土交通省が示す「道の駅」の基本コンセプトは、「地域とともにつくる個性豊かなにぎわいの場」とされ、施設は、駐車場やトイレ等の「休憩機能」、道路情報や地域の観光情報等を提供する「情報発信機能」、文化教養施設や観光レクリエーション施設などの「地域連携機能」の3つの機能で構成されています。また、最近の「道の駅」においては、災害時に「防災機能」を発揮することも求められつつあります。

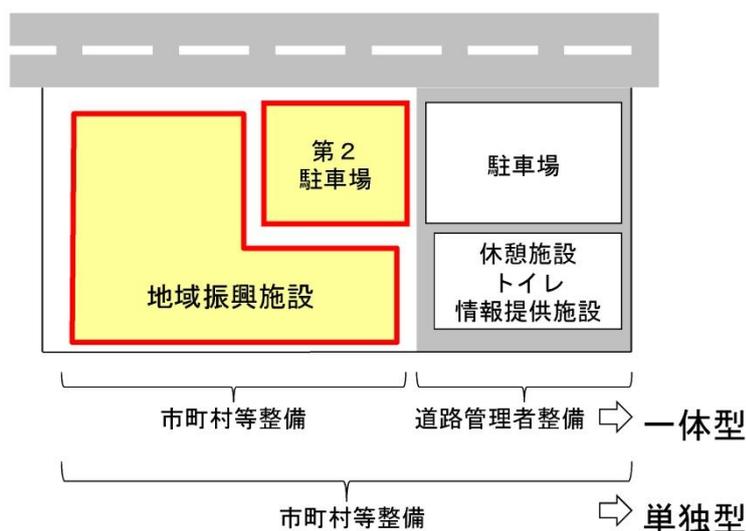


資料：国土交通省ホームページ

2 | 整備主体と整備方法

「道の駅」は市町村又はそれに代わり得る公的な団体（以下、「市町村等」という）が設置することとされています。また、登録は、市町村長が登録申請し、道路管理者を経由し、国土交通省が登録します。

整備方法には、道路管理者と市町村等が役割を分担し、共同で整備を行う「一体型」と、市町村等で全ての整備を行う「単独型」の2つがあります。



資料：国土交通省ホームページ

3 | 登録要件

「道の駅」の登録には、次の要件を満たす必要があるとされています。

項目	登録要件
設置位置	● 休憩施設としての利用のしやすさや「道の駅」相互の機能分担の観点から、適切な位置であること。
施設構成	● 休憩目的の利用者が無料で利用できる十分な容量の駐車場と清潔なトイレを備えるとともに、それらの施設及び施設間を結ぶ主要な歩行経路のバリアフリー化が図られていること。 ● 乳幼児に対する授乳やおむつ交換台が備わっていること。（ベビーコーナー） ● 利用者に多様なサービスを提供する施設であって、道路及び地域に関する情報を提供する案内所又は案内コーナーがあるものが備わっていること。（案内・サービス施設）
提供サービス	● 駐車場、トイレ、ベビーコーナー、電話は24時間利用可能であること。 ● 案内・サービス施設には、原則として案内員を配置し、親切な情報提供がなされること。
設置者	● 案内・サービス施設の設置者は、市町村又は市町村に代わり得る公的な団体であること。
配慮事項	● 女性・年少者・高齢者・身障者・妊婦や乳幼児連れなど様々な人の使いやすさに配慮されていること。 ● 施設計画は景観に十分配慮し、特に景勝地にあつては、地域の優れた景観を損なうことのないよう計画されていること。

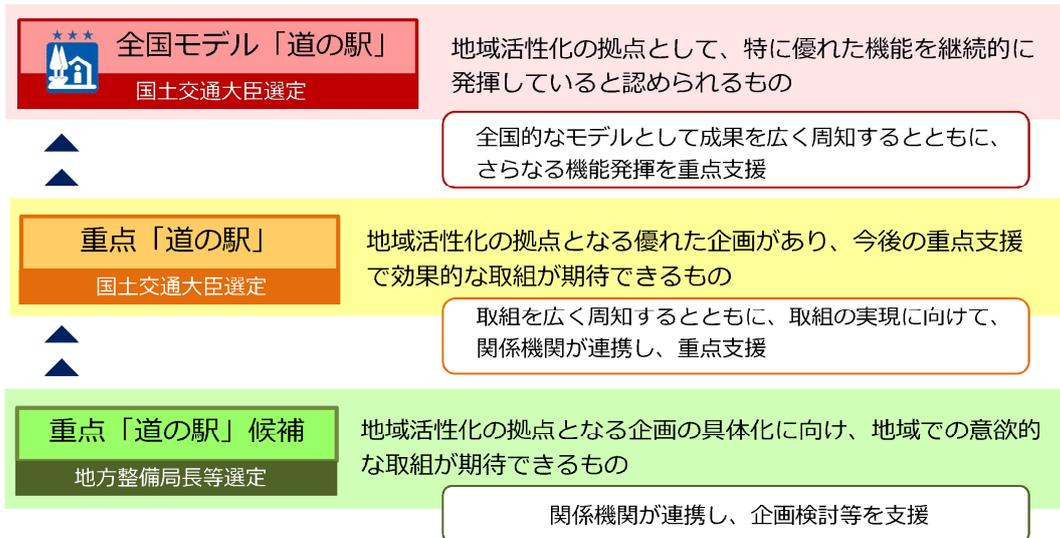
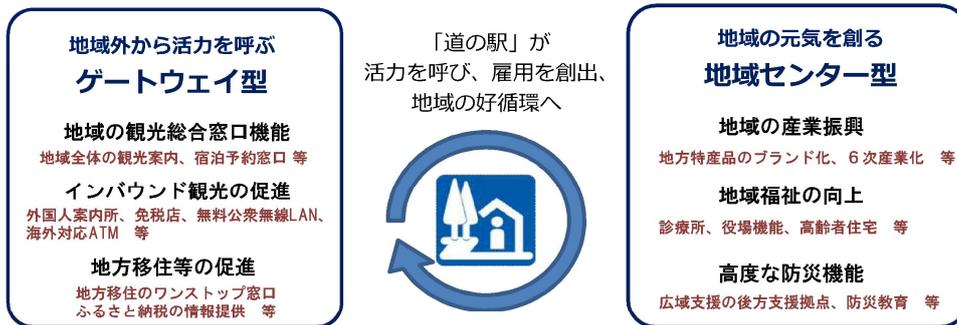
資料：「道の駅」登録・案内要綱

4 | 「道の駅」による地方創生拠点の形成

元来、道路利用者の休憩施設として生まれた「道の駅」は、まちの特産物や観光資源を生かしてひとを呼び、地域に仕事を生み出す核へと独自に進化を遂げました。

国土交通省では、これからの道の駅は、『地域の拠点機能の強化』と『ネットワーク化』を重視し、『道の駅』自体が目的地となるよう育てていくものとしており、地方創生元年と言われる平成26年度に、重点「道の駅」制度を創設し、「道の駅」を地方創生の拠点とする先駆的な取組をモデル箇所として選定し、関係機関と連携して総合的に支援する方針を打ち出しています。

〈重点「道の駅」に想定される機能〉



資料：国土交通省ホームページ

九州管内では平成29年度までに、以下の道の駅が、『重点「道の駅』』、『全国モデル「道の駅』』に選定されています。

種別	道の駅
重点「道の駅」	うきは(福岡県)、たちばな(福岡県)、鹿島(佐賀県)、彼杵の荘(長崎県)、小国(熊本県)、阿蘇(熊本県)、北川はゆま(宮崎県)
住民サービス部門モデル「道の駅」	酒谷(宮崎県)
モデル「道の駅」(地域交通拠点部門)	むなかた(福岡県)

全国モデル「道の駅」の概要

平成28年度 住民サービス部門 モデル「道の駅」 国土交通大臣認定

中山間地域及び漁村地域等において、高齢化社会に対応した地域福祉向上のための取組、地域課題に対応した住民生活支援のための取組、小さな拠点形成を目指した取組など、公共の福祉を増進することを目的とした地域住民へのサービス向上に資する取組を、現在実施し成果をあげているもの



資料：平成28年度住民サービス部門モデル「道の駅」認定結果資料 国土交通省

平成29年度 モデル「道の駅」(地域交通拠点部門) 国土交通大臣認定

中山間地域及びその周辺地域において、「道の駅」が公共交通モード間の接続拠点となっており、接続機能向上の取組により、現時点で地域住民の生活の足の確保に資する成果をあげているもの

(対象イメージ)



資料：平成29年度モデル「道の駅」(地域交通拠点部門)認定結果資料 国土交通省

5 | 災害時における「道の駅」の役割

新潟県中越地震、東日本大震災、熊本地震では、「道の駅」が、被災者の一時避難や災害地へ向かう緊急車両の中継地点などとして活用されています。

また、熊本県では「道の駅」について、被災時の情報発信拠点、復旧活動の支援拠点、救援物資の中継基地として活用することを目的として、電力・トイレ利用・備蓄品等の確保を行うなど「道の駅」の防災機能の強化を図っています。

地震災害において「道の駅」が果たした役割

	避難場所の提供	トイレの提供	道路情報、避難情報	飲食品の無料提供、炊き出し	支援基地の設置	関係組織との連携
中越地震						
東日本大震災						
熊本地震						1

1：道の駅相互連携による支援物資、特産品等の販売協力・支援、道路情報提供

熊本地震において「道の駅」が果たした役割：一時避難場所としての活用



道の駅「あそ望の郷くぎの」に隣接するアウトドアショップより、避難者へのテント、寝袋等の貸し出しが行われ避難場所として活用された。(テント設置数は、約30張)

熊本地震において「道の駅」が果たした役割：救援物資の中継基地としての活用



自衛隊や緊急車両が、被災地支援へ向かうにあたり、道の駅「小国」は、県境に近い「道の駅」であることや、道の駅「大津」、「旭志」は、熊本空港に近い位置にあることから中継地点として利用された。

資料：熊本地震で「道の駅」が防災拠点として果たした役割 九州・沖縄「道の駅」連絡会

6 | 阿久根市及び近隣の「道の駅」の立地状況

鹿児島県内の「道の駅」は、平成 31 年 2 月末現在、22 か所立地しており、このうち、阿久根市内には「阿久根」が立地しています。

阿久根市に隣接する薩摩川内市には「樋脇遊湯館」が、長島町には「長島」と「黒之瀬戸だんだん市場」の 2 か所で、計 3 か所立地しています。

薩摩川内市の「樋脇遊湯館」は平成 6 年に、阿久根市の「阿久根」、長島町の「長島」は平成 8 年に供用されており、これらは、鹿児島県内の「道の駅」の中では、『老舗中の老舗』といえます。

阿久根市及び近隣の道の駅の概要を以下に示します。



阿久根市及び近隣の「道の駅」

阿久根市及び近隣の「道の駅」の概要

駅名	施設概要	施設の特徴
 「道の駅」阿久根	平成 8 年 3 月供用 駐車場：普通車 66 台,大型車 9 台 身障者 2 台 トイレ：男性 7 基,女性 4 基,身障者 2 基 観光案内所、休憩所 直売所、レストラン・軽食,乳幼児設備 「とるば ¹ 」対象駅	国道 3 号沿線で第 1 号の「道の駅」です。東シナ海に面し、陸と海がマッチした絶景の場所にあります。物産館では鮮魚、野菜、農水産加工の特産品の展示即売、レストランでは前浜で朝方水揚げされた新鮮な魚を使った料理を提供しています。
 「道の駅」樋脇遊湯館	平成 6 年 12 月供用 駐車場：普通車 69 台,大型車 8 台 身障者 2 台 トイレ：男性 10 基,女性 5 基,身障者 1 基 観光案内所、休憩所 直売所、レストラン・軽食,乳幼児設備	天下の名泉「市比野温泉」の入り口に位置しており、駅内には観光案内所を設け、無料の足湯（島津の殿様湯）を備えています。物産館では「薩摩川内市」自慢の特産品を販売し、気軽に立ち寄れる食堂もあります。
 「道の駅」長島	平成 8 年 7 月供用 駐車場：普通車 24 台,大型車 2 台 身障者 1 台 トイレ：男性 5 基,女性 3 基,身障者 1 基 観光案内所、休憩所、レストラン・軽食 直売所（ポテトハウス望陽） 「とるば ¹ 」対象駅	国道 389 号沿いの東シナ海を一望できる場所に位置する心やすらぐ景勝地です。夜は漁火が街のネオンのように見え、ロマンチックな旅情を誘います。長島海中公園では美しいサンゴも見る事ができます。駅周辺には海水浴場があり、キャンプや磯釣りもできます。
 「道の駅」黒之瀬戸だんだん市場	平成 22 年 3 月供用 駐車場：普通車 40 台,大型車 4 台 身障者 2 台 トイレ：男性 6 基,女性 3 基,身障者 1 基 観光案内所、休憩所、黒之瀬戸眺望施設 直売所	国道 389 号の長島町の玄関口に位置し、日本三大急潮である黒之瀬戸海峡を眼下に見下ろす景勝地に立地しています。水産物や加工品、農産物は約 40 種の商品が並びます。物産館内には「いけす」があり、長島近海で捕れた養殖ぶりなど新鮮な海産物が販売されています。

1 とるば：国土交通省が情報提供を行っている、駐車できる駐車場と、そこから歩いていける撮影スポットがセットになった場所（フォトスポット&パーキング（とるば））

阿久根市、薩摩川内市、長島町の現状

1 | 阿久根市の特徴

阿久根市は鹿児島県北西部に位置し、高松川河口の阿久根漁港を中心に古くから海上・陸上交通の要衝として海運業・商業などで栄えたまちです。北部は激流が渦巻く日本三大急潮のひとつ黒之瀬戸を隔て長島町と接し、東部は出水市、南部は薩摩川内市と接しています。東シナ海に面した約40キロメートルにも及ぶ美しい海岸線や沖合およそ2キロメートルに浮かぶ阿久根大島は、海水浴や釣りの名所として知られており、毎年多くの観光客が訪れます。

沿岸を洗う黒潮は、至るところに亜熱帯の植物を育み、温暖な気候を利用した農業や水産業が盛んです。品質の高い数多くの生鮮品や加工品は、「アクネ うまいネ 自然だネ」の統一ブランドで全国に向けて出荷されており、中でも特産品の「阿久根ボンタン」をはじめ、大将季（だいまさき）や紅甘夏など柑橘類は全国有数の生産量（ボンタン生産全国第2位）を誇ります。

このように、温暖な気候や東シナ海の豊かな恵みを生かした第一次産業を基幹産業として、農林水産物を原料とする食品加工業を中心に地域の振興と発展に努めています。



黒之瀬戸の渦潮



阿久根大島



阿久根ボンタン

来訪客の玄関口としては、自動車利用者向けには、「道の駅」阿久根、鉄道利用者向けには、「にぎわい交流館阿久根駅」があります。また、肥薩おれんじ鉄道牛ノ浜駅周辺では名勝地である「牛之浜海岸」等の絶景を車窓から楽しむことができます。「牛之浜海岸」は、古くから景勝地として知られ、その海岸の岩礁は、鹿児島県内で最も古い地層のひとつメランジ堆積物（白亜紀後期）であり、学術的価値とともに、その地層が優秀な風致景観を成すものとして平成26年4月に県文化財の指定を受けました。名勝としては、桜島に次いで2番目の指定です（県指定名勝は、平成31年2月末現在この2か所のみ）。



にぎわい交流館阿久根駅



県指定文化財（名勝）牛之浜海岸

2 | 薩摩川内市の特徴

薩摩川内市は、鹿児島県の北西部に位置し、鹿児島市、いちき串木野市、さつま町、阿久根市などに隣接する本土地域と上甑島、中甑島、下甑島からなる甑島区域で構成され、東シナ海に面した変化に富む海岸線、市街地を悠々と流れる川内川、蘭牟田池及びその周辺のみどり豊かな山々や湖、地形の変化に富む甑島、各地の温泉など多種多様な自然環境を有しています。

薩摩国分寺跡、清色城跡などの国指定史跡や入来麓伝統的建造物群保存地区をはじめ、多くの貴重な歴史的資源を有しており、古くから南九州における政治・経済・文化の中心地として栄えてきました。

これまで薩摩川内市では、農林水産業の新たな担い手や後継者の確保・育成支援、企業誘致、九州新幹線鹿児島ルートや南九州西回り自動車道の整備進捗に合わせた観光事業の展開などを進めてきました。

また、近年では、積極的なシティセールスを展開し、スポーツ合宿誘致、観光客の受入促進等による交流人口の拡大に加えて、企業誘致において、食品、観光、エネルギー、医療・介護関連などのビジネス分野を地域成長戦略に位置付け、同分野を対象とした立地促進補助を創設したほか、起業や転業等の新産業創出等に積極的に取り組んでいます。

3 | 長島町の特徴

長島町は、鹿児島県の最北端の町として薩摩半島の北西部に位置し、四方を東シナ海、八代海、長島海峡等の海に囲まれ、島の北部一帯は雲仙天草国立公園に指定されるなど豊かな自然に恵まれた地域です。

昭和49年4月には、黒之瀬戸大橋の開通により阿久根市と結ばれ、長島本島は離島から半島化しました。また伊唐島と諸浦島はそれぞれ伊唐大橋と乳之瀬橋で長島本島と繋がっており、現在は獅子島だけが有人離島となっています。

長島町では、比較的温暖な海洋性気候と重粘土の赤土という自然の特性を生かし、鹿児島県のブランド産地指定も受けている春パレイショを基幹作物として、さつまいも、にがうり、温州みかん、甘夏などが盛んに生産、出荷されています。

また、恵まれた漁場と温暖な気候に支えられ、魚類養殖を中心に日本一の養殖ブリ産地として発展してきており、日本中ではもとより、海外にまで輸出するようになり、「鯨王」というブランドの確立が図られています。

一方、造形美術展や夢追い長島花フェスタなどの長島町独自のイベントや、道の駅「黒之瀬戸だんだん市場」、「長島」の人的・物的観光交流を柱とした観光体制を確立し、集客対策の強化に取り組んでいます。

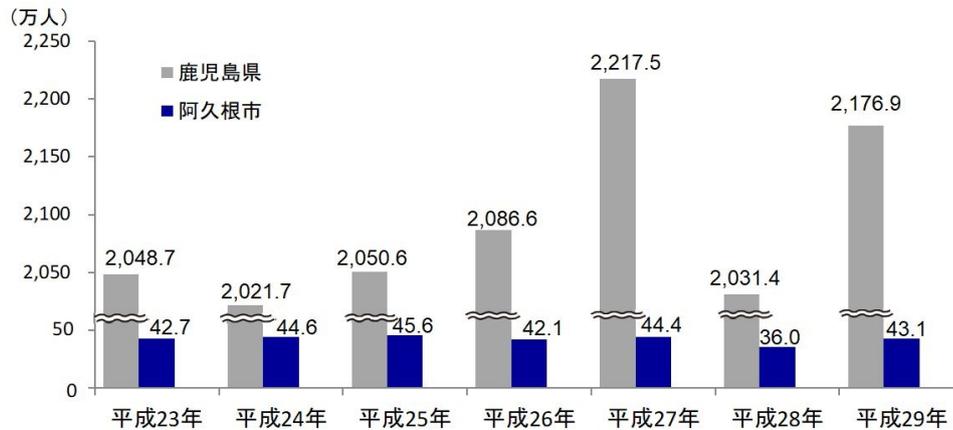
4 | 阿久根市、薩摩川内市、長島町の観光動向

(1) 阿久根市の観光動向

鹿児島県全体及び阿久根市の入込客数の推移をみると、鹿児島県全体では平成 24 年から平成 27 年までは順調な増加傾向にありましたが、平成 28 年は一転大幅な減少が見受けられ、平成 29 年は再び増加に転じています。

阿久根市では、平成 29 年までは 36 万人から 46 万人程で推移していますが、鹿児島県全体と同様、平成 28 年に減少が見られます。

平成 28 年の入込客数の減少は、同年 4 月に発生した熊本地震及びグランビュウ阿久根の閉館による影響があるものと思われます。



資料：鹿児島県全体：鹿児島県の観光動向～鹿児島県観光統計～
阿久根市：統計あくね

鹿児島県全体、阿久根市の入込客数の推移

平成 28 年の阿久根市の入込客数の内訳をみると、「道の駅」阿久根、番所丘公園、温泉（栄屋・クアドーム等）が概ね 9 万人前後となっています。

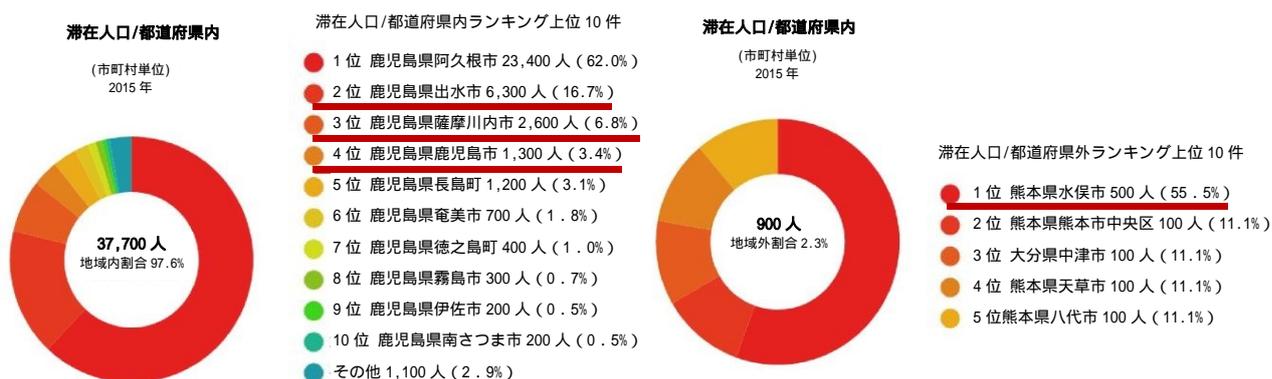
「道の駅」阿久根の利用者については、施設管理者へのヒアリングによると、平日では 9 割、休日では 7 割が市民によるものとのことです。



資料：統計あくね

平成 28 年阿久根市入込客数の内訳

阿久根市への来訪者のほとんどは、近隣エリアの出水市や薩摩川内市からであり、平成 27 年休日平均でそれぞれ 6,300 人、2,600 人が訪れています。しかしながら、鹿児島市内からは、1,300 人の来訪となっており、自動車ですら 1 時間 15 分という距離にありながら、当市の人口の 1% 未満の訪問に留まっています。また、県外においては、熊本県水俣市からの来訪者 500 人が最も多くなっており、県外から多く来訪しているとは言い難い状況になっています。



出所 RESAS

資料：阿久根市観光まちづくり戦略

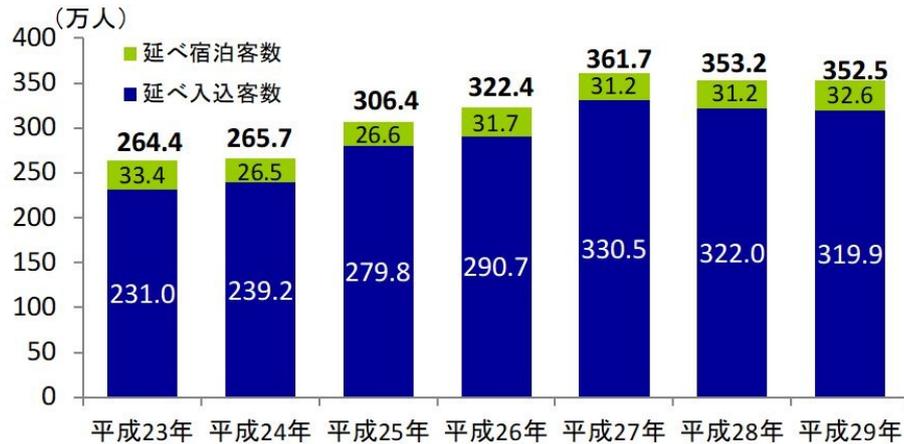
阿久根市の休日平均滞在人口（平成 27 年）

(2) 薩摩川内市の観光動向

薩摩川内市の入込客数の推移をみると、総数（入込客数 + 宿泊客数）は、平成 23 年の 264.4 万人から平成 27 年の 361.7 万人まで順調な伸びを見せましたが、平成 28 年から平成 29 年にかけて若干ではありますが減少に転じました。

内訳をみると、入込客数が全体のほぼ 9 割を占めており、平成 24 年から平成 25 年、平成 26 年から平成 27 年にかけて比較的高い伸びを見せています。

一方、宿泊客数は 30 万人程度で推移しており、ほぼ横ばい状態です。

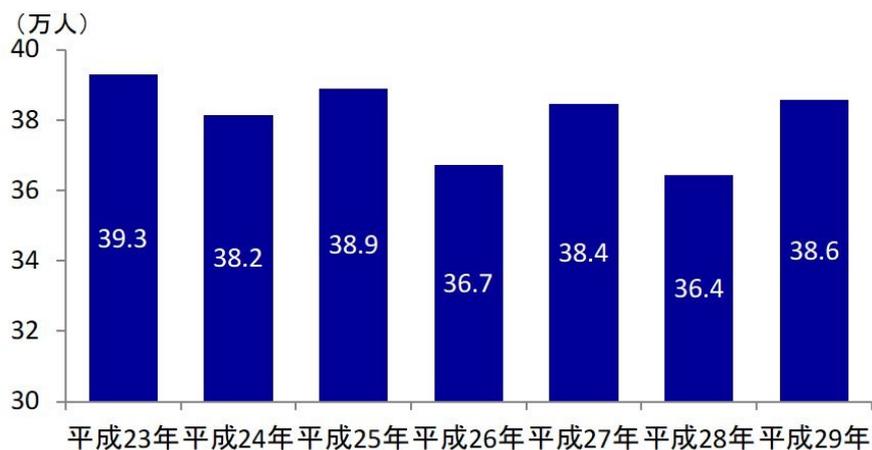


資料：統計さつまさんだい

薩摩川内市の入込客数・宿泊客数の推移

(3) 長島町の観光動向

長島町の入込客数は、年毎に増加・減少を繰り返していますが、概ね 36 万人～39 万人前後で推移しています。



資料：長島町資料

長島町の入込客数の推移

(1) 阿久根市

第5次阿久根市総合計画(計画期間:平成22年度～平成31年度)

農商工連携による地場産業の活性化

- ・ 販路拡大のための新たな流通経路開拓と支援
- ・ 農商工連携の促進による新たな事業や産業の創出

観光振興による交流促進

- ・ 阿久根市の旬な食材や味覚、イベント等の積極的な情報発信
- ・ 阿久根大島をはじめとする観光施設の充実と訪れやすい環境整備

**笑顔あふれる阿久根市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略
(計画期間:平成27年度～平成31年度)**

まちを「うまい」で満たし「うまい」を広げる

- ・ 販路拡大や阿久根ブランドの情報発信による商工業の支援
- ・ 6次産業化につながる新たな食の加工品創出と販路拡大

阿久根に来る人を増やす(交流人口拡大)

- ・ 阿久根の魅力(みどこい¹)の対外的な発信と、これらを体験できる取組量の拡大・質の向上による、阿久根市に来てみたい、また来たいと思う人の増加
- ・ 南九州西回り自動車道全線開通を見据えた、地域間連携の促進と人やモノが活発に行き来する交通や交流の拠点づくり
- ・ 阿久根市固有の自然景観、歴史環境を生かした誘客、観光地づくり
- ・ 「薩摩よりみち風景街道」を介した地域間連携による地域活性化・観光振興

阿久根市過疎地域自立促進計画(計画期間:平成28年度～平成32年度)

農業、水産業の振興

- ・ 高品質で安全・安心な農畜産物が消費者に届くまでの流通販売体系の確立
- ・ 新鮮な魚の提供と「阿久根産」としての差別化による販路拡大
- ・ 食育の推進や新製品の開発等による魚食の普及

観光又はレクリエーション

- ・ 体験型観光の素材の掘り起こしと受入事業所・民家の増加と体験メニューの拡充、各種媒体を活用した情報発信
- ・ 観光客が快適に過ごすための施設整備と観光客をもてなすための環境整備

阿久根市観光まちづくり戦略(計画期間:平成29年度～平成33年度)

観光コンテンツの充実

- ・ 阿久根の強みである『食』を核とした観光地化と食のブランド化・6次産業化の推進による域内消費拡大
- ・ 阿久根市の魅力を総合的にアピールし、様々な商品を販売する物産館の整備
- ・ 阿久根大島、阿久根市独自の食文化、歴史資源等を生かした旅行商品の造成

受入環境の整備

- ・ 「薩摩よりみち風景街道」や牛之浜海岸などにおける駐車場、案内施設等の充実

¹「みどこい」とは、阿久根の方言で、中心の良いところを指す言葉、みどころ「阿久根みどこい祭り」では、「魅・美・味・見」の4つの意味を持たせています

(2) 薩摩川内市

第2次薩摩川内市総合計画(計画期間:平成27年度～平成36年度)

農林漁業の六次産業化の促進

- ・消費者ニーズを踏まえた商品開発の促進と付加価値の向上や販路拡大に向けた支援

市民ぐるみによるシティセールスの推進と観光物産ビジネスの展開

- ・旅行者への観光案内の体制強化と民間活力による観光商品の販売促進
- ・観光物産協会と地域が連携した市外や海外市場への物産販売力の強化
- ・観光物産施設のサービスや販売機能の充実への支援
- ・各種メディア媒体や薩摩川内大使等を通じた情報の積極的な発信
- ・歴史・文化・観光等を含めた旅行誘客や販路拡大につながるセールスの推進
- ・観光物産協会のマーケティング・マネジメント機能強化への支援
- ・市内外の各種団体と広域的な連携を深めた体制の確立

薩摩川内市総合戦略(計画期間:平成27年度～平成31年度)

足腰の強い一次産業の確立と六次産業化等の推進

- ・六次産業化の推進による農林漁業の改善と新たな付加価値の創出に向けた農商工連携の推進

観光物産振興による交流人口の拡大

- ・観光物産と文化・芸術・スポーツ・イベント等を組み合わせた交流型観光及びツーリズムの推進
- ・コンベンション・合宿・キャンプ等の誘致による交流人口の拡大
- ・観光旅行受入体制の充実・強化の支援(宿泊施設の収容能力の向上、スポーツ合宿受入体制の充実、観光物産協会のDMO機能の強化)
- ・地域資源を活かした旅・食・品に関する名物的商品の開発及び販路拡大
- ・市民ぐるみによるシティセールスの強化

薩摩川内市過疎地域自立促進計画(計画期間:平成28年度～平成32年度)

観光の振興

- ・農業・漁業・運輸流通業・商業等の産業間連携の促進による地域経済を支える新たな観光関連産業の振興
- ・特産品、土産物販売所の機能充実・ネットワーク化と観光情報の効果的な提供

産業戦略

- ・地域資源を活かした交流型観光等の推進による薩摩川内ブランドの創出を目指した地域の魅力的な商品・サービスの発見・育成・開発
- ・物産と多様な地域資源を組み合わせた交流型観光の推進による観光業の産業力強化
- ・各種メディアを積極的に活用し、歴史・文化やスポーツ観光を含めた旅行誘客
- ・市のブランド力、知名度・好感度の向上を目指した販路拡大につながるシティセールスプロモーションの推進
- ・農林漁業者が主役の六次産業化の推進と新商品開発等を行う農商工連携の促進

(3) 長島町

長島町第2次総合振興計画(計画期間:平成 29 年度～平成 38 年度)

商工会を中心とした活性化

- ・「薩摩よりみち風景街道」を軸とした薩摩半島西部の美しい海岸道路を生かした地域の活性化と観光振興
- ・鹿児島県商工会連合会とJAグループ鹿児島が連携した地域特産品を利用した新商品の開発、成果品の普及・PRについて、町内事業者も商工会の支援を受けながら積極的に参加することによる販路拡大

イベントを利用した観光PR及び交流型観光の推進

- ・イベントごとの農林水産業との交流メニューの設定による都市の住民との交流型観光の推進

新しい観光ルートの策定

- ・国道、県道沿いにある自然石を利用した「石花」モニュメントを「石花百乱」をめぐる観光ルートとしてPR
- ・川床ふれあいの郷(ブーゲンビリア)を新たな観光スポットとして位置づけることによる町外観光客誘客
- ・九州新幹線と現在整備が進められている南九州西回り自動車道から長島、天草、島原を結ぶ観光ルートの策定による薩摩半島西岸の美しい景観と東シナ海に沈む夕日などの国内への発信

体験型観光、滞在型観光の推進

- ・長島町観光協会、長島地区ホテル旅館組合と連携した農林水産業体験を盛り込んだ体験型・滞在型観光メニューの開発・推進
- ・新たな観光メニューの開発による町内に2泊したくなる魅力の創出

既存観光施設のリニューアル

- ・東町漁協の「長島大陸食堂」を町外観光客のグルメスポットとして発信
- ・サンセット長島の新たな滞在型観光の拠点施設としての整備

長島版総合戦略(計画期間:平成 27 年度～平成 31 年度)

長島の基幹産業である農業・水産業のブランドづくりと長島大陸が誇る食を核にした交流人口の拡大(長島おいしいプロジェクト)

- ・食材を作る過程や作り手の思いを伝え、作り手に会いたいと思う気持ちが芽生えるような「長島大陸食べる通信」の創刊による長島大陸への交流の「階段」をつくる
- ・獅子島の新鮮な食材と大自然を堪能し、獅子島の魅力を知ってもらうことによる獅子島観光案内所の集客力を向上するとともに、情報発信の場としての役割を果たしていき、交流人口を増やしていく
- ・長島大陸の魅力を満喫することができる憧れの宿泊施設(「長島迎賓館」(仮称))をオープンし、「長島ブランド」を確立する

「道の駅」整備の必要性

1 | 南九州西回り自動車道利用者に対する快適な休憩機能の創出

南九州西回り自動車道の開通後の阿久根市から薩摩川内市の自動車交通量は、現況の 8,090 台/日から 20,500 台/日と 2 倍以上増加することが想定されており、道路利用者の休息需要（一時的な休憩、トイレ利用等）は現在以上に高まるものと予想されます。

しかしながら、南九州西回り自動車道の本線上には、唯一、美山パーキングエリアにトイレと屋外休憩施設があるだけで、休憩施設等の整備予定はない状況です。

一方、南九州西回り自動車道に設置が予定されている大川 IC（仮称）の近傍の国道 3 号に、「道の駅」阿久根が立地しており、24 時間利用可能なトイレや駐車場、情報・休憩室、物産館、レストランを有しています。



大川 IC(仮称)周辺拡大図

「道の駅」阿久根



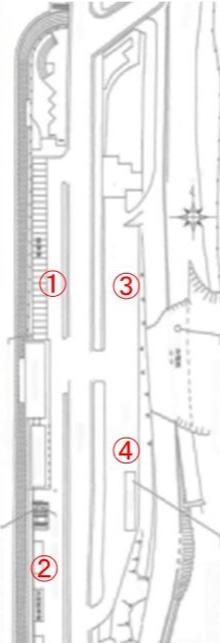
「道の駅」阿久根 施設・施設配置図

「道の駅」阿久根はオープンから20年余りが経過し、知名度も高く、多くの道路利用者が休憩や物産館に訪れるため、駐車台数75台（うち大型車9台分）のうち、平日昼間でも約8割が利用されており、休日はほぼ満車状態で休憩したくても休憩できない状況になっています。

また、海沿いに立地し、眺望がよい反面、背後が崖地で、土砂災害防止法に基づく、土砂災害警戒区域（急傾斜地）に指定されているため、大幅な施設の拡充は難しい状況となっています。



① 海側駐車場（北側）



③ 山側駐車場（北側）



② 海側駐車場（南側）



④ 山側駐車場（南側）

「道の駅」阿久根 駐車状況（平日）



- 土砂災害警戒区域(急傾斜地)
- 土砂災害警戒区域（土石流）



資料：土砂災害警戒区域等マップ（鹿児島県）

「道の駅」阿久根周辺の土砂災害警戒区域の指定状況

また、阿久根市から薩摩川内市の国道 3 号沿道における、誰でも気軽に利用できる公設の駐車スペースが、阿久根市に 7 か所・計約 50 台分(小型車 以下同じ)、薩摩川内市に 6 か所・計約 40 台分立地しています。

このうち、南九州西回り自動車道のインターチェンジ予定地付近に立地する駐車スペースは、阿久根市の大川 IC (仮称) 予定地近傍に 4 か所・計約 40 台分の駐車スペースがありますが、いずれもトイレは設置されていません。

大川 IC (仮称) 近傍の駐車スペース



人形岩駐車場 (とるば¹指定)



大川 IC (仮称) 近傍の駐車スペース



薩摩川内市湯田の駐車スペース

国道 3 号沿道の駐車スペース

1 とるば : 国土交通省が情報提供を行っている、駐車できる駐車場と、そこから歩いていける撮影スポットがセットになった場所 (フォトスポット&パーキング (とるば))

このような状況から、既存の「道の駅」阿久根及び国道 3 号沿道の公設駐車スペースだけでは、今後、阿久根市付近の自動車交通量は 2 倍以上に増加することが想定されるなど、南九州西回り自動車道開通後に予想される休息需要の高まりに対して、到底対応できないことが予想されることから、南九州西回り自動車道利用者及び国道 3 号の休息需要に的確に対応し、かつ利用者の利便性向上を図るための、安全快適な休憩機能の創出が求められます。

2 | 来訪者や道路利用者に対する効果的な情報発信機能の創出

阿久根市をはじめ、近隣の薩摩川内市、長島町には、自然、歴史・文化、食、景観などをテーマとした地域資源が豊富であり、これら資源の効果的な情報発信は阿久根市及び近隣地域の活性化に向けた観光振興方策の展開においても、重要な柱として位置づけられます。



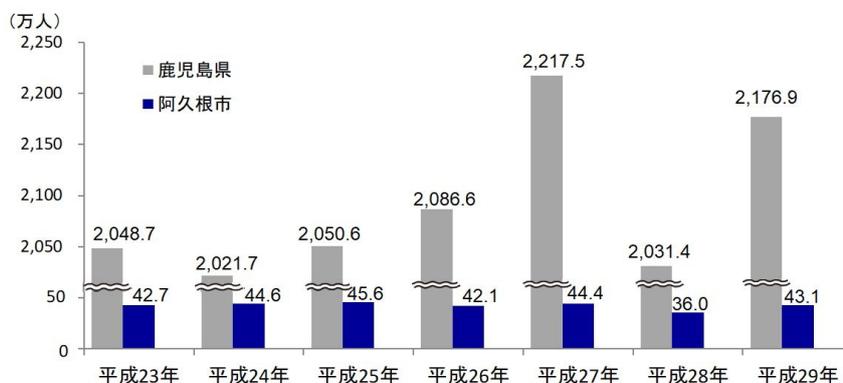
また、日本列島の魅力・美しさを発見、創出するとともに、多様な主体による協働のもと、景観、自然、歴史、文化等の地域資源を生かした国民的な原風景を創成する運動を促し、もって地域活性化等に寄与するものとして、「日本風景街道」の取組が進められています。

南九州西回り自動車道のルート沿線は、平成 27 年 8 月に選定された日本風景街道「薩摩よりみち風景街道」と同じエリアにあり、当該風景街道の地域資源として掲げられている日本三大急潮黒之瀬戸や牛之浜景勝地（阿久根市）東シナ海を背景に「人形岩」や「ナポレオン岩」などの美しい自然景観（薩摩川内市）が多数点在しています。

薩摩よりみち風景街道		九州
■ 地域のねらい <ul style="list-style-type: none"> ・ 美しい薩摩の街道づくり ・ 地域の活性化・観光の振興 ・ 観光資源間の連携 ・ 街道を通じた活動の継続と展開 	■ 地域資源 活動内容	
■ 活動エリアと地域資源 <p>◆ 活動エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東シナ海に面した海岸線、薩摩の西海岸を結ぶルート（国道3号、389号、499号等）、全長約217km ・ 出水市公開武家屋敷など薩摩の歴史や文化を伝える名勝史跡などの文化施設が点在しており、地域の宝として輝いている。 ・ 黒之瀬など日本三大急潮流の景勝地や東シナ海を背景に「人形岩」や「ナポレオン岩」などの美しい自然景観が多数点在している。 ・ 海岸の清掃活動や、道路の花の植栽など、美しい景観を維持を実施 ・ ツルが飛来する世界的な越冬地として知られ「鹿児島県のツル及びその渡来地」として国の特別天然記念物に指定 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>① 出水市公開武家屋敷群</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>② 鹿児島県のツル及びその渡来地</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>③ 黒之瀬戸海峡</p> </div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>花の植栽活動</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>海岸の清掃活動</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>④ ナポレオン岩</p> </div>	
■ 地域の活動推進体制 <ul style="list-style-type: none"> ・ 薩摩よりみち風景街道推進協議会（構成） 【民間】阿久根商工会議所 等（活動団体 計36団体） 【行政】鹿児島県、出水市、阿久根市、薩摩川内市、いちき串木野市、日置市、長島町 		

資料：九州風景街道ホームページ

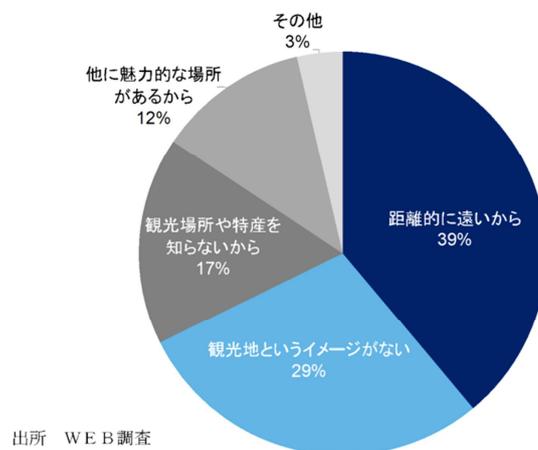
これらの地域資源は、既存の「道の駅」等の観光拠点施設、観光パンフレット、観光協会及び観光案内ホームページの展開などにより、広く情報発信している状況にはありますが、阿久根市、薩摩川内市、長島町の入込客数は伸び悩んでいる状況です。



資料：鹿児島県全体：鹿児島県の観光動向～鹿児島県観光統計～
阿久根市：統計あくね

鹿児島県全体、阿久根市の入込客数の推移

また、「阿久根市観光まちづくり戦略」の策定時に実施した鹿児島市在住者に対するアンケート調査では、阿久根市を訪問しない理由として、「距離的に遠いから：39%」が最も多くを占めていますが、「観光地としてのイメージがない：29%」、「観光場所や特産を知らないから：17%」という結果も示されており、観光のイメージづくりや魅力的な観光資源の発信に課題が残る状況にあります。



資料：阿久根市観光まちづくり戦略

阿久根市を訪問しない理由

さらに、先に示したように、南九州西回り自動車道の本線上には、サービスエリア等の設置予定がないことから、同自動車道利用者に対する道路情報・災害情報を的確に提供する必要があります。このような状況から、阿久根市、薩摩川内市、長島町の観光地としてのさらなるイメージアップ、道路利用者の利便性向上を図るため、地域の資源や観光コンテンツなどの魅力(みどころ)やリアルタイムな道路情報・災害情報を、一体的かつ効果的にプロモーションできる機能の創出が求められます。

3 | 阿久根市と近隣地域がつながる地域連携機能の創出

(1) 広域交流拠点の形成

阿久根市、薩摩川内市、長島町の地域づくりの方向性の中で、「**魅力あふれる資源を生かした観光振興による交流人口の拡大**」と「**特色ある地域産品や農商工連携による新たな産品の流通販路拡大**」は、各市町が展開する地域振興策の共通の柱として明確に位置づけられています。

【阿久根市】	【薩摩川内市】
<p>第5次阿久根市総合計画</p> <p><u>農商工連携による地場産業の活性化</u> <u>観光振興による交流促進</u></p> <ul style="list-style-type: none">阿久根市の旬な食材や味覚、イベント等の積極的な情報発信阿久根大島をはじめとする観光施設の充実と訪れやすい環境整備 <p>笑顔あふれる阿久根市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略</p> <p><u>まちを「うまい」で満たし「うまい」を広げる</u></p> <ul style="list-style-type: none">阿久根ブランドの情報発信による商工業の支援6次産業化につながる新たな食の加工品創出 <p><u>阿久根に来る人を増やす(交流人口拡大)</u></p> <ul style="list-style-type: none">阿久根の魅力(みどこい)の対外的な発信、これらを体験できる取組量の拡大・質の向上による、阿久根市に来てみたい、また来たいと思う人の増加南九州西回り自動車道全線開通を見据えた、地域間連携の促進と人やモノが活発に行き来する交通や交流の拠点づくり阿久根市固有の自然景観、歴史環境を生かした誘客、観光地づくり「薩摩よりみち風景街道」を介した地域間連携による地域活性化・観光振興 <p>阿久根市観光まちづくり戦略</p> <p><u>観光コンテンツの充実</u></p> <ul style="list-style-type: none">『食』を核とした観光地化と食のブランド化・6次産業化の推進による域内消費拡大阿久根市の魅力を総合的にアピールし、様々な商品を販売する物産館の整備	<p>第2次薩摩川内市総合計画</p> <p><u>農林漁業の六次産業化の促進</u></p> <ul style="list-style-type: none">消費者ニーズを踏まえた商品開発の促進と付加価値の向上や販路拡大に向けた支援 <p><u>市民ぐるみによるシティセールスの推進と観光物産ビジネスの展開</u></p> <ul style="list-style-type: none">観光物産協会と地域が連携した市外や海外市場への物産販売力の強化観光物産施設のサービスや販売機能の充実支援歴史・文化・観光等を含めた旅行誘客や販路拡大につながるセールスの推進観光物産協会のマーケティング・マネジメント機能強化への支援市内外の各種団体と広域的な連携を深めた体制の確立 <p>薩摩川内市総合戦略</p> <p><u>足腰の強い一次産業の確立と六次産業化の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none">六次産業化の推進による農林漁業の改善と新たな付加価値の創出に向けた農商工連携の推進 <p><u>観光物産振興による交流人口の拡大</u></p> <ul style="list-style-type: none">観光物産と文化・芸術・スポーツ・イベント等を組み合わせた交流型観光及びツーリズムの推進コンベンション・合宿・キャンプ等の誘致による交流人口の拡大地域資源を活かした旅・食・品に関する名物的商品の開発及び販路拡大市民ぐるみによるシティセールスの強化
<p style="text-align: center;">【長島町】</p> <p>長島町第2次総合振興計画</p> <p><u>イベントを利用した観光PR及び交流型観光の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none">イベントごとの農林水産業との交流メニューの設定による都市の住民との交流型観光の推進 <p><u>新しい観光ルートの策定</u></p> <ul style="list-style-type: none">国道、県道沿いにある自然石を利用した「石花」モニュメントを「石花百乱」をめぐる観光ルートとしてPR九州新幹線と現在整備が進められている南九州西回り自動車道から長島、天草、島原を結ぶ観光ルートの策定による薩摩半島西岸の美しい景観と東シナ海に沈む夕日などの国内への発信 <p><u>体験型観光、滞在型観光の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none">長島町観光協会、長島地区ホテル旅館組合との連携による農林水産業体験を盛り込んだ体験型・滞在型観光メニューの開発・推進新たな観光メニューの開発による町内に2泊したくなる魅力の創出 <p>長島版総合戦略(計画期間:平成27年度～平成31年度)</p> <p><u>長島の基幹産業である農業・水産業のブランドづくりと長島大陸が誇る食を核にした交流人口の拡大(長島おいしいプロジェクト)</u></p> <ul style="list-style-type: none">食材を作る過程や作り手の思いを伝え、作り手に会いたいと思う気持ちが芽生えるような「長島大陸食べる通信」の創刊による長島大陸への交流の「階段」をつくる獅子島の新鮮な食材と大自然を堪能し、獅子島の魅力を知ってもらうことによる獅子島観光案内所の集客力を向上するとともに、情報発信の場としての役割を果たしていき、交流人口を増やしていく長島大陸の魅力を満喫することができる憧れの宿泊施設(「長島迎賓館」(仮称))をオープンし、「長島ブランド」を確立する	

観光振興による交流人口の拡大は、阿久根市、薩摩川内市、長島町の知名度を高め、ひいては定住人口の増加にもつながる可能性を持っているため、恵まれた自然や新鮮な食材などの地域資源を生かし、“地域の魅力を直接感じる(うまい、きれい、たのしい、いやされる)ことのできる観光コンテンツ(ハード、ソフト)”を提供する必要があるといえます。

また、地域社会が持続的に発展し続けていくためには、子育て世代の支援やU・Iターンの促進などによる定住人口の維持・拡大はもとより、高齢者の生きがい機会の確保・創出、地域住民のつながりを深める取組が重要であり、“子供から高齢者までの幅広い世代間の交流機会や、住民同士のコミュニティ形成、市民と来訪者が気軽に触れ合える場”を増やすことも含めた「交流人口」や「関係人口¹」の創出・拡大を図る必要があるといえます。

一方、阿久根市、薩摩川内市、長島町の農産物や魚介類は生鮮品のみならず、それらを原料とする食料品製造加工業などの関連産業の源となっており、阿久根市では「アクネ うまいネ 自然だネ」の統一ブランドとして、また、長島町では、ワールドワイドなブランド展開を行っている「鰯王」、農産物の「かごしまブランド」として認定を受けた「赤土ばれいしょ」など、地域の海の幸・山の幸は人々に広く親しまれています。

これら資源の提供元である第一次産業をはじめとして、製造業、商業、観光など、幅広い食の関連産業の振興発展を目指す取組として、“地域の豊かな自然から生み出される良質な資源、及びそれらの付加価値を高めた加工品などの販路拡大のための拠点”づくりが必要であるといえます。

このような状況の中、南九州西回り自動車道の開通により、九州縦貫自動車道と一体となった南九州西岸還流ネットワークが形成されることになり、沿線地域における物流や観光客の流れが大きく変化することが予想されます。

このことは、阿久根市及び近隣の薩摩川内市、長島町などが進めている、「魅力あふれる資源を生かした観光振興による交流人口の拡大」や「特色ある地域産品や農工商連携による新たな産品の流通販路拡大」の地域振興施策の展開を強力に支援することになります。



つまり、沿線の阿久根市、薩摩川内市、長島町が、これまでの国道3号を介した“線”としてのつながりから、南九州西回り自動車道の開通により人・モノの流れが活発化した“軸としての太い絆”により結ばれることになり、この“太い絆”のもと、2市1町の共通課題である「魅力あふれる資源を生かした観光振興による交流人口の拡大」や「特色ある地域産品や農工商連携による新たな産品の流通販路拡大」に連携して取り組むことで、その政策効果を道路ネットワークの流れに乗せて、広く沿線地域一帯に効果的に波及させることが可能となります。

1 関係人口：「定住人口」でもなく、「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様にかかわる人々のこと

したがって、南九州西回り自動車道の開通による、人・モノの流れがより活発になる大きなチャンスを生かし、阿久根市、薩摩川内市、長島町が連携した“太い絆”のもとに、地域の強みを最大限に生かした地域活性化を図るため、以下に示すような機能が集積する広域交流拠点の形成が求められます。

地域の魅力(みどこい)を、南九州西回り自動車道を利用して訪れる方々に対して実際に感じて(うまい、きれい、たのしい、いやされる)もらえる機能
阿久根市、薩摩川内市、長島町にまた来てみたいと思っただけのような“おもてなし”を提供する機能
来訪者と阿久根市民との交流機会、市民同士の交流機会を創出する機能

(2) 広域防災拠点の形成

平成 29 年 7 月、福岡県朝倉市や大分県日田市等で発生した「九州北部豪雨」により、福岡・大分両県では、死者 37 名、行方不明者 4 名の人的被害の他、多くの家屋の全半壊や床上浸水など甚大な被害が発生しました。また発災直後には 2,000 名を超える方々が避難生活を送ったとされています。

災害はいつ何時、どこで発生するか分からず、阿久根市や近隣の薩摩川内市、長島町においても同様であり、各市町の地域防災計画等で定められている災害発生時の応急対応と復旧・復興のための体制や取組はもとより、それらの活動の拠点の形成も重要になると考えられます。

したがって、南九州西回り自動車道が災害発生時における信頼性の高い緊急輸送道路としての役割を果たすこと、東日本大震災や熊本地震において、「道の駅」が一時避難や応急対応の活動拠点として有効に機能したことなどを踏まえると、市民の安全・安心な暮らしに寄与し、災害発生後の広域的な応急対応や復旧・復興の拠点機能の形成が求められます。

「道の駅」の整備候補地

「道の駅」の整備候補地は、先に整理した「道の駅」整備の必要性に基づき、以下の視点から、南九州西回り自動車道大川 IC（仮称）近傍地としました。

なお、この項以降は、本構想における「道の駅」を、『サンセット牛之浜景勝地「道の駅」』と称します。



「道の駅」整備候補地位置図

南九州西回り自動車道(八代 JCT ~ 鹿児島 IC)のほぼ中間の位置に立地していることから、同自動車道利用者に対する利便性の高い休憩機能としての役割が果たせること。



南九州西回り自動車道（八代 JCT ~ 鹿児島 IC）と「道の駅」整備候補地

県立阿久根自然公園牛之浜景勝地、県指定文化財（名勝）牛之浜海岸をパノラマビューで臨むことができる好立地にあり、また、「薩摩よりみち風景街道」の取組と一体となった、阿久根市、薩摩川内市、長島町などの歴史、文化、イベント、観光等の情報発信拠点としての機能を果たせること。

薩摩川内市及び長島町内に立地している道の駅とは、「樋脇遊湯館」まで約 34km、「黒之瀬戸だんだん市場」まで約 23km、「長島」まで約 37km と、一定の距離が保たれた位置に立地しており、これらの「道の駅」の休憩機能・地域連携機能との機能分担を図ることが可能であること。



薩摩川内市内・長島町の「道の駅」

災害等発生時の緊急輸送道路として機能する南九州西回り自動車道のインターチェンジの近傍に立地することから、災害発生時の防災拠点、南九州西回り自動車道を利用した災害応急活動や支援物資拠点として機能し得ること。